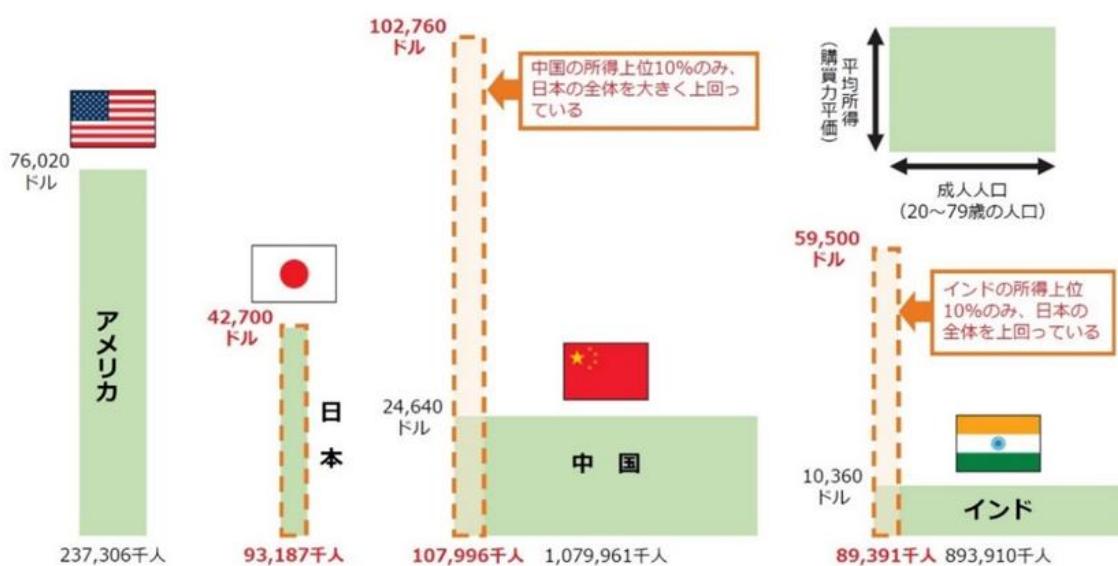


令和7年度 長崎女子短期大学一般選抜2期入試 総合問題

各国の人口と所得

- 日本の平均所得は、中国、インドを上回るが、それぞれの国の所得上位10%層のみをみると、その平均所得は日本全体を大きく上回っている。



資料：「WORLD INEQUALITY REPORT 2022」及び「IDF Diabetes Atlas」
注：2021年時点。

上記の資料は、2022年（令和4年）10月18日の国の食料・農業・農村政策審議会 基本法検証部会で配布された資料に掲載されたグラフつきの図である。この資料をみて、以下の質問に答えなさい。

（問1）アメリカ、日本、中国、インドの4カ国の中、平均所得が一番高い国はどの国か。平均所得の額は何ドルか。

（問2）アメリカ、中国の所得上位10%、インドの所得上位10%のうち、最もその平均所得が高いのはどの国か。その平均所得の額は日本の平均所得の何倍か。

（問3）中国からの観光客は長崎県にも多数来訪しているが、所得上位10%が観光客として来訪した場合、その観光客を対象としたレストランを経営するとしたら、どのようなお店にするとよいか、理由を挙げて提案せよ。

（問4）日本は長期にわたり人口減少が続いている。このような状況において、観光業界がとるべき戦略を考え、提案せよ。なお、必ずしも海外からの観光客を受け入れることのみを提案する必要はない。

（問5）このような平均所得の差が長期的に続く場合、わが国の社会に与える影響を1つ取り上げ、その影響を評価した上で、必要な場合にとるべき対応策についても述べよ。